

【宮城県角田市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「第2期角田市教育振興基本計画」（計画期間：令和4年度から令和13年度）において、情報教育の推進及び端末の活用、ICT環境の充実等が掲げられている。ICT活用を通じて「個別最適な学び」や「協働的な学び」を促進し、児童生徒が「自ら学び、自ら考える力」、Society5.0時代を生き抜く力を育む教育を進め、本市教育の基本理念である「学びって楽しい！～持続可能な社会を実現する人づくり～」の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

本市では、国のGIGAスクール構想に基づき、令和3年度から市内全ての小・中学校で1人1台端末（タブレット端末）を導入し、通信ネットワークの構築やクラウドサービスの積極的な活用等、GIGAスクール構想の実現に向けて必要な環境を整備してきた。併せて、機器の不具合対応等のサポートのため、GIGAスクール運営支援センター事業による支援体制を整えるとともに、各学校の情報教育担当教職員と教育委員会担当で構成される情報教育推進委員会の開催回数増による充実化を図り、優良事例や情報の共有を行ってきた。

教職員のICTスキル及び活用指導力の向上を目的とした研修も毎年行っており、1人1台端末を活用した授業や家庭学習は日常的になりつつあるが、現在も学校や教職員間でICTスキルや活用具合に多少の差が見受けられるため、引き続き委員会での情報共有や研修等の機会を設けることにより活用の促進を図る。

3. 1人1台端末の利活用方策

（1）1人1台端末の積極的活用

1人1台端末の導入以来、毎年行っている活用研修を今後も継続し、教職員のICT活用指導力の向上を図る。併せて、情報教育担当教職員と教育委員会担当で構成される情報教育推進委員会を定期的に開催し、事例や情報の共有を継続して行う。

（2）個別最適・協働的な学びの充実

AIドリルの導入により「個別最適な学び」や「自由進度学習」を促進し、自ら学ぶ力を育みながら、当市で課題となっている学力の向上を図る。また、令和6年度より有償で導入した授業支援システムのより一層の活用を促し、協働的な学びが実現するよう環境を整える。

（3）学びの保障

オンライン授業の実施等、1人1台端末の活用により学びの幅を広げ、様々な状況にある児童生徒に学習機会を確保する。また、当市では不登校児童生徒が増加傾向にあり重大かつ喫緊の課題となっているが、AIドリルの導入により、不登校児童生徒の学習機会を確保し、個別最適化された学びを実現する。

本市ではこれらの取組みを推進するため、端末の整備・更新により、児童生徒の1人1台端末環境を引き続き維持していく。